

## ➤ 橋の基本形状「鋼5径間箱桁（張り出し大）」の特徴

- ① 5径間（橋脚が4基）の橋
- ② 支持部材による張り出しの大きい形状
- ③ 桁下面に曲線などで変化をつける形状
- ④ 鋼製の箱桁橋

○ 新大橋で選択できる径間数3径間と5径間を比べたとき、5径間は・・・

【渡りやすさ】 路面が低く、勾配が緩い。

【スケール】 桁のボリュームが小さくなり、リズムのある桁下面がまちなみのスケールとなじむ。

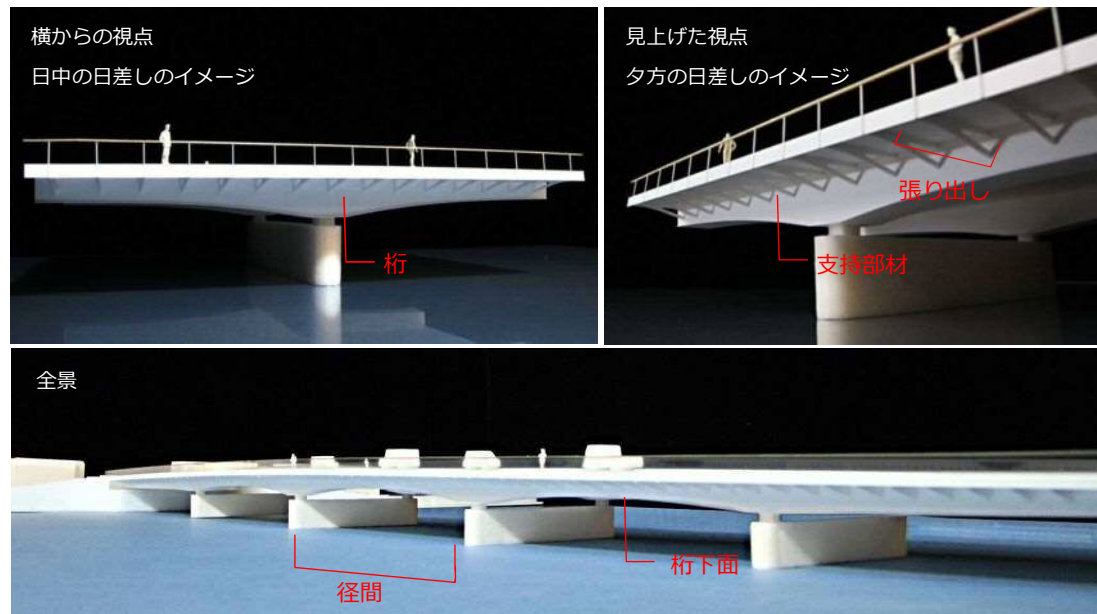
【遠景の美しさ、水平方向の伸びやかさ】 左右対称に近く、大橋川の伸びやかな風景を引き立てる。

○ 支持部材がなく張り出しの少ない形状と比べ、支持部材による張り出しの大きい形状は・・・

【スケール】 橋脚幅を小さくすることができる。

【表情】 遠景ではシンプルなシルエット、近景では張り出しを支える一定間隔の支持部材が陰影や奥行きある繊細な印象をつくり、日差しや眺める場によってより豊かな表情が生まれる。

【近景の意匠】 高欄や地覆の形状に加え、張り出し部のデザインの自由度の高さにより、橋全体として洗練された意匠を得られる可能性が高い。



### ○委員からの意見（一部を抜粋）

- ・松江らしさを表現し、松江の風情に合う橋を考えるとボリューム感のある橋は似合わない。
- ・桁を鉸桁のような形で、数を多くしてもかなり桁高を高くしないと剛性が取れない。なるべく低く、外観がスリムという条件を考えると、形状は箱桁が良いのではないかと思う。耐久性を考えると、箱桁のほうが維持管理しやすい。
- ・模型ぐらい張り出しがあった方が、日差しや眺める場所による表情の差が生まれたり、水面のゆらゆらとした風景も見られたりすると思うので、下から見ても良いと思う。
- ・L案（上記模型の案）は、影が入ることによって奥行きが出るので、そこで薄く見えるような視覚的な変化ができると思う。橋脚も、なるべく奥にあった方がコントラストの効果でより繊細に見えるのではないか。L案は景観の観点で評価すると、スレンダーに見えたり、影をうまく利用した見え方が可能になる。近景ではまた違った装いが見えるのではないか。
- ・日本でも一時期アルコーブ（橋上の突き出たスペース）を積極的につくることが行われたが、構造的に大きなたまり空間になっていないこともあって、あまり使われていない印象。そう考えると、例えば手すり上の幅が、もたれかかったり掴んだりしやすい形にするという工夫をすることで、わざわざ橋の真ん中の休むところまでとまではなく、自分の好きなところで休んだりできると思う。そうしたところに力を注いでいくのが良いのではと思う。
- ・前後の取付道路は歩道有効幅2mだが、橋は予め県で工夫して50cm広げた計画にしているのは大変優れた計画だと思うし、県が頑張ったという点は、市民の方にもちゃんとお伝え頂いた方が良く思う。
- ・石や瓦を是非使用してほしい。瓦などのリサイクル材料も。橋自体は無理でも橋詰空間での活用を考えて欲しい。
- ・新大橋単体での視点だけではなくて、結果として大橋川が夜に歩いても楽しいということに寄与できるような照明のあり方もある。

## 新大橋景観検討委員会 【ダイジェスト版】

### 第3号

平成29年6月28日

### ■第3回新大橋景観検討委員会

平成29年6月8日（木）に「第3回新大橋景観検討委員会」を開催しました。今回は、意見募集の結果を踏まえた新大橋整備基本方針、橋の基本形状、橋上空間、及び市民意見交換会の開催について議論していただきました。

基本方針や基本形状の方針など、これから新大橋の詳細な検討をしていくうえでの大きな方向性が決まった委員会となりました。



### ➤ 新大橋整備基本方針が決定!!

市民の皆様からの意見を募集し、いただいたご意見を踏まえて作成した新大橋の設計を進めるための「新大橋整備基本方針」が今委員会にて了承されました。意見募集では多くのご意見をいただき、ありがとうございました。

決定した「新大橋整備基本方針」は中面に掲載しています。今後はこの「新大橋整備基本方針」に沿って、橋上空間・橋詰空間などの詳細なデザインを検討していきます。

### ➤ 橋の基本形状が鋼5径間箱桁（張り出し大）に方針決定!!

「新大橋整備基本方針」を踏まえ、新大橋の基本的な形状が以下のように方針決定されました。

- ① 5径間（橋脚が4基）の橋
- ② 支持部材による張り出しの大きい形状
- ③ 桁下面に曲線などで変化をつける形状
- ④ 鋼製の箱桁橋

特徴は裏面に掲載しています。今後、この形状を基本として高欄等の詳細なデザインを検討していきます。

### ■市民意見交換会を開催します!!

これまでの景観検討の取り組みを広く市民の皆様にお知らせするとともに、今後の詳細な検討を進めていくにあたってご意見をいただくため、市民意見交換会を開催します。事前の申し込みは不要です。お誘いあわせのうえご参加ください。

○開催日時：平成29年7月28日（金）18時から（20時頃までを予定）

○開催場所：松江市民交流センター（STICビル）5階 交流ホール（松江市白潟本町43番地）

お問い合わせ先：新大橋景観検討委員会 事務局

島根県都市計画課計画グループ

Tel:0852-22-5699/Fax:0852-22-6004

※新大橋架け替え等事業に関するHPを開設しています。

[http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kan/matsue\\_kendo/sinoohasi/](http://www.pref.shimane.lg.jp/infra/road/kan/matsue_kendo/sinoohasi/)

テーマ

『水都・松江の風情を彩り、  
新しいふるさとの原風景をつくる橋』

大橋川は、嵩山や和久羅山の山並みと秀峰・大山を背景に、柳そよぎ情緒あふれるまちなみと一体となった水都・松江を代表する水辺です。この川に架かる松江大橋と新大橋は、伝統と未来を担う両輪のような関係として、永く市民の暮らしを支え、大橋川の風景を形作ってきました。

このたび、架橋から 80 年以上が経つ新大橋は、大きな地震への対応と歩きやすい歩道の実現のため、大橋川の改修に合わせて、新しい橋へと架け替えることになりました。

新しい新大橋の設計にあたっては、水都・松江の風情を彩る現代的で佳麗な姿と、渡りやすく佇みたくなる歩行空間、まちと水辺の回遊性を高める橋詰空間を備えたデザインとします。

これにより、通学時に眺めた朝靄に煙る姿や、家族と河岸から眺めた青空に映える姿というように、大橋川周辺が市民ひとりひとりの原風景となり、ふるさと・松江への愛着と、まち全体の魅力をより高めるような橋を目指します。

※注 佳麗な=整って美しいさまをあらわす

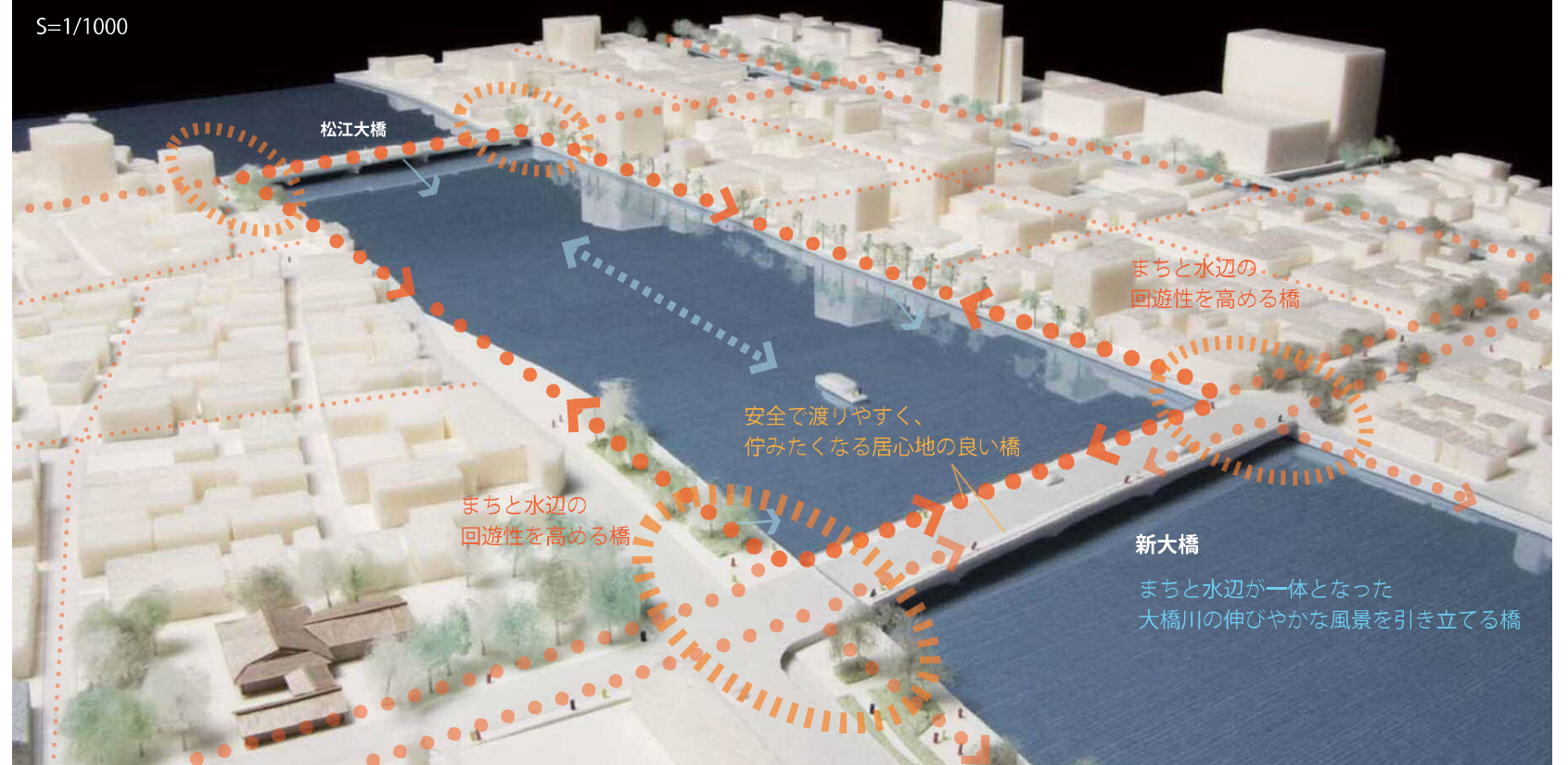
**コンセプト** 上記テーマ達成に向けて、計画上大切にすべき3つの柱

- ・まちと水辺が一体となった大橋川の伸びやかな風景を引き立てる橋
- ・安全で渡りやすく、佇みたくなる居心地の良い橋
- ・市民の居場所となる水辺空間や川沿いのまちへの回遊性を生み出す橋

【現況模型】

S=1/1000

※模型であり、実際とは異なる部分があります



設計方針

コンセプト実現に向けた、設計上の具体的な留意事項

① 全体方針

- ・新大橋と松江大橋の関係性を際立たせるよう、城下町の雰囲気と継承する松江大橋に対して、新大橋はまちの新たな賑わいにつながる、モダンなデザインの橋とします。
- ・長い年月を経ても見飽きない橋とします。
- ・松江大橋や大橋川の両岸など重要な視点場に囲まれているため、眺める場所(距離・角度)や時間帯によって、異なる表情を楽しめるデザインとします。
- ・遠景では大橋川の風景になじむシンプルで美しい形態と、近景では洗練された意匠とを持ち合わせ、訪れた人が渡ってみたい橋とします。
- ・橋詰付近には、座って橋と水辺の風景を眺められるような溜まり空間をつくります。

② 橋梁本体のデザイン

- ・水辺やまちの風景が主役になるように、上部に構造がなく、風景のスケールに合う橋梁形式(桁橋)とします。
- ・大橋川に対し左右対称となり、水平方向の伸びやかさと水面の近さを両立する側面シルエットとします。
- ・歩行者や自転車が渡りやすいよう、路面高さを低く抑える工夫をします。

③ 橋上空間のデザイン

- ・安全で歩きやすく、どこでも佇みたくなるような居心地の良い空間デザインとします。
- ・手触りの良い素材や親しみのある材料を用い、橋梁形状と調和する高欄・親柱のデザインとします。
- ・暖かみがあり、自然素材の風合いを活かした材料による舗装デザインとします。
- ・まちや水辺とつながる灯りのデザインとします。

④ 橋詰のデザイン

- ・まちや水辺空間とスムーズに行き来でき、歩行者の回遊性を高める橋詰空間とします。
- ・背後の街路やまちと一体となった『歩行者優先の空間デザイン』とします。

⑤ 市民参加のデザイン

- ・計画段階から市民に参加してもらい、愛着ある橋とします。
- ・見学会やイベントなど、市民参加型の取り組みをおこないます。